

【年末年始の行事 あれこれ】

年末年始の行事等について、皆さんはどんなことを知っていますか。いくつか紹介します（以下は、ある一部の情報からとっています。下の情報が絶対というわけではありません。ご了解ください）。



*「**クリスマス**」キリスト教を信じる人たちにとって大事な記念日。日本では今から110年くらい前の明治時代から少しずつ盛んに。当時、人気のあったプレゼントは「歯磨き粉」だったとか。



*「**大晦日**」晦日とは毎月の最後の日のこと。だから11月30日も晦日。1年の最後の12月31日に、「大」をつけて「大晦日」と言います。ある調査によれば、日本人の6割くらいは大晦日に蕎麦を食べるという情報もあります。皆さんのご家庭ではどうですか。蕎麦を食べるようになった説には幾つかあるようです。

① 蕎麦は細くて長いので、細くても長く健康に暮らせるという考えからきた説。

② 昔、金箔をつくる職人さんが、飛び散った金箔を集めるのに蕎麦団子を使ったことから、蕎麦はお金を集める縁起物とされた説。



*「**除夜の鐘**」仏教では、人間には108の煩惱（主として人の心を迷わせたりくよくよさせたりする元になるもの）があると言われていています。大晦日に鐘を108つ鳴らして一つ一つ取り払います。鳴らし方には決まりがあり、108回目、つまり最後の1回だけは、真夜中の新年に変わってから鳴らすとのこと。可能であれば、今年最後の鐘の音や、新年最初の鐘の音を聞いてみてください。



*「**正月**」正月には作物をたくさん実らせてくれたり、みんなの健康を守る神様がやってきたりすると考えました。正月はそういったことを鏡餅や松飾りでお迎えしてみんなでお祝いするという伝統的な風習です。昔はもう一つのお祝いの意味がありました。それは、元日は国民全体が一斉に一歳年を取る日だったということ。昔は「数え年」といって、生まれた瞬間に一歳、そして元日になると誕生日に関係なくみんな一斉に年を取ったのです（例えば、12月31日に生まれた子はその12月31日に一歳となり、そして次の日の1月1日には二歳になっていました）。



年末年始の過ごし方は、それぞれの家族によって違います。ただ、こういった年末年始の行事にはその一つ一つに意味があることを知って、大事なことは次の世代にも伝えていきたいものです。そう言えば、おせち料理の食材にも、いろいろな意味が込められていますよね。黒豆とかレンコンとか…。

【いしかわっ子の活躍】 県課題図書感想文コンクール 最優秀賞

*おうちの方から掲載許可をいただいています

やればどんなことだってできる

石川小がっこう 一ねん

わたしが、この本の中で一ばんよかったとおもうところは、ちさとがすべりだいのかいだんの上で、そらに手をひろげているところです。ちさとは足がわるくて、ほこうきをつかわなければあるけないのに、だれからもたすけてもらわないで、一人でがんばって、すべりだいかいだんをのぼったから、まるでおひさまとおなじたかさで、うちゅうのてっぺんにいるみたいにかんじたんだとおもいます。そらにてをひろげているちさとは、とつてもきもちよさそうです。そして、うれしいきもちでいっぱいだったとおもいます。わたしも、小さいころ、たかいジャングルジムのてっぺんまでのぼったとき、とつてもうれしくて、きもちよかったことをおぼえています。ちさとは、そのなんばいもうれしかったとおもいます。

「うん。なんだってできるんだ。」

といっている、おともだちのしゅんくんも、ちさとが一人でかいだんをのぼったから、びっくりして、かんどうしたんだとおもいます。しゅんくんは、ちさとがあたまを「こくん」としたら、かならずじぶんでやるってことをしています。そんなちさとのことをよくわかって、じつとみまもっているしゅんくんはとつてもやさしいとおもいます。

ちさとがあたまを「こくん」とするとき、「だいじょうぶ。できるよ。」って、まるでじぶんにおまじないをかけているみたいです。でも、本とうは、ちさとだって、「だいじょうぶかな？できるかな？」って、しんぱいしているはずなのに、「こくん」とすると、きつとゆうきがでてくるんだとおもいます。そして、「やれば、どんなことだってできるんだよ。」って、じぶんをはげましているんだとおもいます。足がわるいからできないと、あきらめないで、ゆうきをだしてかいだんをのぼったちさとは、えらいなとおもいます。わたしも、ちさともみたいに、どんなことにもゆうきをだして、ちょうせんしていきたいです。

(原文のまま。印刷の関係で横版にしています)